



中北の地域社会 (community)の心の交流 (communication)をめざします

日はまた昇る

中北教育事務所
副所長 金井 哲也



明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、新たな気持ちで新しい年を迎えられたことと存じます。日頃より中北教育事務所の様々な事業に対しまして、ご理解とご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、皆様にとりまして、昨年はどうのような年でありましたでしょうか。新型コロナウイルスの感染が拡大し、まん延防止等重点措置が要請された時もありました。中北地域でも感染者が急激に増加し、その対応に追われる日々が続いたこともありました。ワクチン接種が進んだおかげなのか、徐々に感染者が減少し収束に向かったように見えた時期もありましたが、新しい変異株が確認され再度感染が拡大する心配もあります。ウィズコロナの時代をどう生きていくのかが問われているのだと思います。

昨年は、一年延期になっていた東京オリンピック・パラリンピックが、コロナ禍の中開催されました。開催自体を不安視する意見もありましたが、大会が始まると、私は山梨県出身の選手はもちろん、日本選手の活躍にテレビ越しに声援を送りました。印象に残っているのは、水泳の池江璃花子選手とパラ水泳の山田美幸選手の活躍です。困難にめげず努力を重ね、オリパラという舞台で活躍することができた二人の姿に、たくさんの方が勇気と感動をもらったのではないのでしょうか。

池江選手の好きな言葉は「乗り越えられない壁はない」だそうです。私はこの二人のように困難を乗り越える自信はありませんが、困難なことがあると「ピンチはチャンス」「明けない夜はない」「日はまた昇る」などと思うようにしています。「何とかなるさ」と鈍感になることも、時には必要なのではないかと思います。そして、一人で悩まずに、誰かに相談したり協力してもらったりして解決していくことが大切だと思います。

新しい年が明けましたが、我々の身の回りには、これからもたくさんの困難なことが待っていると思います。みんなで知恵と力を出し合って、壁を乗り越えていきましょう。今後も、中北教育事務所職員一同、皆様のために一生懸命頑張りますので、ぜひよろしくお願いたします。令和4年が皆様にとって夢と希望に満ちた素晴らしい年になることを祈念し、新年のご挨拶にさせていただきます。

第43回全国公民館研究集会

第61回関東甲信越静公民館研究大会

公民館がつなげる地域の人・もの・こと&MIRAI～しなやかな公民館活動をめざして～

全公連YouTubeチャンネルで公開中！

全体会をオンデマンド配信しています。

- ・基調講演 笹本正治氏（長野県立歴史館 特別館長・甲斐市出身）
- ・実践事例発表 演劇・ミュージカルを通じた敷島公民館の取り組み
岡田みどり氏（甲斐市教育委員会生涯学習文化課）

各地の取り組みは、大会記録集で御覧ください。

なお、岡田みどり氏は、令和3年度全国公民館連合会永年勤続職員として表彰されました。



令和時代の伝え合う道徳教育

中央市立田富南小学校

山梨県教育委員会では、道徳教育推進の1つとして県内6小中学校で3年間の研究事業をおこなっています。甲府市立伊勢小学校と中央市立田富南小学校が指定校となり、3年間の集大成として、その取り組みを地域の学校に広めています。

中央市立田富南小学校（芦澤明仁校長）では、11月に道徳授業を公開しました。「自ら学び、自ら考える児童の育成～考え、伝え合う道徳の授業づくりを通して～」をテーマに、研究を深めました。

5年生の授業では、考えを深めるための工夫、伝え合うための工夫が垣間見られました。一例はジャムボード（写真右）です。ジャムボードはグーグル社が提供するクラウド型ホワイトボードです。児童1人1人の手元から電子黒板に、瞬時に個人の意見を投影できることが強みです。授業では、考え、議論しあう授業にするための手段として、意見交換に利用され、授業のねらいに迫っていました。



研究主任の山田直美教諭は、「1人1台端末の活用は、友達の見解を瞬時に知ることができること、また無記名で書き込むこともできるため本音を出しやすくすることなど、多くのメリットがあります。それにより、本音で活発に語り合う児童の様子が見られるようになり、児童が道徳的価値について多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めることができるようになったと感じています。」と、話してくれました。



学校現場では、道徳授業に限らず、1人1台端末の活用が進み、児童にとってタブレットは、文房具の一部になりつつあります。ICTを効果的に使いながら、子ども同士が対話を通して心を育てていく道徳科。各学校では、「不易と流行」を大切に、令和時代にふさわしい道徳教育に取り組んでいます。

学び続ける教師たち

中北教育事務所管内 初任者研修閉講式

学校現場には、新採用教員の研修拠点として、県内各地区に「初任者研修授業実習校」が設けられています。今年度中北地区では、小学校42名、中学校20名の採用があり、小学校教諭が南アルプス市立若草小学校と南アルプス市立白根飯野小学校で、中学校教諭は甲斐市立双葉中学校において、年間5回の授業見学と授業研修会に参加し、授業力の向上ならびに学級経営、児童生徒理解の力量を高めました。加えて、山梨県総合教育センターでの指定研修や異校種参観（異なる校種の授業を見学すること）に参加し、視野を広げ、必要なスキルを身につけてきました。切磋琢磨してきた新採用教員は、これからも向上心を持ち続け、いつまでも「学び続ける教師」であってほしいと思います。

- 振り返り、考え、計画し、実行するサイクルを忘れずに学び続けていきます。（韮崎市小学校教諭）
- 教材教具の活用について参考になりました。初任者が集まって議論できることが刺激でありモチベーションになりました。（北杜市小学校教諭）
- 生徒の気持ちに寄り添う指導も少しずつ行えるようになってきたのではないかと思います。（昭和町中学校教諭）
- 授業力の向上と生徒の長所を生かす場面をつくり、普段から生徒が納得するような言葉かけを心がけていきたいです。（甲斐市中学校教諭）



教育奨励賞 努力賞を受賞しました

山梨県立富士見支援学校

第36回時事通信社教育奨励賞努力賞を、山梨県立富士見支援学校（小倉正一校長）が受賞しました。2019年度から2年間、県教育委員会指定の実践研究指定校として、病弱の児童生徒の特性等を把握した授業づくりの研究に取り組み、合理的配慮のポイントを明らかにした合理的配慮表の作成に至りました。



「教職員15名の小さな学校ですが、教員の授業力向上を第一に、毎月1回実践発表を行いました。その結果、一人一人の特性等について深く知ることができ、共通理解が深まり、指導の共有化がすすみました。」（研究主任 山田達也教諭）

「本校は、長い間病弱教育の実践を続け、指導の専門性を構築してきました。研修会では、東洋大学文学部教育学科教授の谷口明子先生にビジョンづくりから丁寧な御指導・御助言をいただくことで、理論に基づいた研究を進めることができました。」（金丸実奈江教頭）

今年度からは「遠隔教育研究」実践研究校として、新たな研究を始めています。

「コロナ禍では、児童生徒の中には登校が難しい子どもたちもあり、教員もベッドサイドまで行くことができませんでした。その際も、遠隔授業を行い子どもたちに寄り添って学習を続けました。今回作成した合理的配慮表の中にも、ICTの視点が取り入れられています。そこを基盤として、児童生徒に合わせて何ができるか、課題を見つけて、まずやってみるところからです。」（小倉正一校長）

今回作成の「合理的配慮表」が富士見支援学校のホームページに掲載されています。「授業づくりと合理的配慮の提供」の7つのポイントは、病弱児童生徒のためだけでなく、「困り感」を持った児童生徒に共通する項目もあるのではないのでしょうか。共生社会の実現のためにも、日常生活や社会生活のなかで、支援を必要としている人たちに、適切な対応をしたいですね。



「実践即研究」が合い言葉の富士見支援学校、研究はまだまだ続きます。

富士見支援学校



地域の力 愛育班の活動

南アルプス市源地区愛育班

源地区愛育班（青柳久美子班長）は、子育て支援の活動の一環として、小学生に歯ブラシのプレゼントを行って3年目。10月20日には、白根源小学校を訪れ、歯の絵本の読み聞かせ活動を行いました。対象は1・2年生。「甘い物、好きですか？」の質問には、たくさん手が挙がる元気な児童。ちょうど歯の生え替わりの時期とも重なり、「プラーク」「ミュータンス菌」など、覚えづらい言葉も絵本から学習していました。歯ブラシのプレゼントを手にした児童からは「ためになる話だった。歯磨きを続けたい。」との感想が聞かれました。

「源地区は子どもを大切にできる意識が高いと感じています。コロナ禍で声かけが難しい中、小学校や保育所などへ出向いて、健康づくりの話をする機会を大切にしたいです。役員さんが交代しても、活動が長く続けられるよう工夫して、続けていきたいです。」（今回訪問の役員の方の皆さん）



実は、この源地区は、昭和12年に全国4カ所の愛育村の指定を受けたうちの1つです。当時の源村がこの指定を受けて今年で84年にもなるのです。なかでも、矢崎きみよ（1891～1979）さんは、長年この活動に尽力した人物です。現在、源小学校の隣にある愛育会館は、1階が学童クラブの場所ということもあり、小学生には身近な存在です。愛育会館前の矢崎きみよさんの銅像は、今日も、子どもたちの健やかな姿を見守っています。

#中北バトン

様々な立場から、子どもたちへの思い、地域への思いを語っていただきます。
4回目の今回は、甲府市の奈良直樹様です。

ボランティア活動を通じて育む人間性と社会性

山梨県ボランティア・NPOセンター 主事 奈良 直樹

山梨県ボランティア・NPOセンターは、ボランティア活動を始めたい方、活動している方へサポートを行っています。県域のセンターとして、福祉、教育、環境などのボランティア活動情報を集めて、紹介しています。また、学習会や交流会なども開催し、ボランティア活動者の輪を広げています。様々な形でボランティア活動の振興に取り組んでいますので、お気軽にご相談ください。（電話055-224-2941）

また、山梨県では、毎年2月を「ボランティア・NPO推進月間」と定めて活動の普及・啓発を図っています。今年で45回目となりますが、ポスター図案の募集を行い、多くの小・中・高等学校の児童・生徒から応募をいただいています。ボランティア活動を考え、始めることは、他者や社会について関心を持つきっかけになります。今後も、多くの学校からご参加をいただければ幸いです。また、この月間にあわせて、ポスター図案の展示会や県内各地で普及・啓発に関する学習会や交流会などが行われます。詳細は、本センターホームページ「やまなしNPO情報ネット」に掲載しますので、ご覧ください。

最後に、本センターは、「やまなし地域づくり交流センター」（甲府市丸の内2丁目35-1）の3階に所在しています。このセンターは、県民・企業・NPOが交流・連携する拠点として令和3年8月にオープンしました。様々な方々にご活用いただける所ですので、是非一度ご来訪ください。

手作りのしめ縄で新年を

峡中地区社会教育の会

峡中地区社会教育の会（石合廣光会長）は、甲府市立甲運小学校で、親子しめ縄作り教室を開催しました。昨年度中止のこの行事には、児童・保護者26組が参加しました。

大きな稲わらの束から1本ずつ選別するところから、しめ縄を作る一つ一つの工程を丁寧に行いました。保護者も初めての方が多く、会員の方の指導を受けながら、見よう見まねですすめました。だんだんとしめ縄の形になってくると、親子の息もバッチリ！「こっちもって」「ここおさえて」と協力する姿も。出来上がったしめ縄飾りを持ってうれしそうな子どもの顔を見て、「しめ縄作りをする機会はなかなかない。つくったしめ縄を飾って、いい年を迎えてほしい。」と、会員の皆さんも満足げに微笑んでいました。

「よりをかける」「縄をなう」「すえひろ」「ごへい」「うらじろ」……。今回、初めて聞くような言葉も覚え、いつもと違うお正月を迎えられそうですね。



山梨ことぶき勸学院

学生募集のお知らせ

山梨ことぶき勸学院では、生涯学習のニーズに対応し、令和4年度の学生を募集します。

○入学案内・募集要項

令和4年1月下旬頃から

各市町村の教育委員会や教育事務所
などで配布予定

○出願期間

令和4年2月1日（火）から

（定員になり次第締め切り）

○修業年限：2年

○講座日：原則金曜日（半日）

○費用：基本学習費16,000円

お問い合わせ先

山梨ことぶき勸学院

電話 055-233-6947